

# 30E-pm09

暴馬子 *Syringa reticulata* 幹皮の化学的研究

○光畑 奈央子<sup>1</sup>, 佐々木 辰憲<sup>1</sup>, 李 巍<sup>1</sup>, 筆 雪艶<sup>1,2</sup>, 張 清波<sup>2</sup>, 小池 一男<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東邦大薬, <sup>2</sup>黒竜江省薬品検驗所)

【目的】モクセイ科植物暴馬子 *Syringa reticulata* の幹皮は中国では消炎・去痰を目的として伝統的に用いられており、中国薬局方にも収載されている生薬である。中国産伝承薬用植物の化学的研究の一環として、暴馬子幹皮の成分研究を行った。今回、得られた化合物の構造解析並びに抗酸化活性について報告する。

【方法・結果】暴馬子幹皮を 70% エタノールで抽出し、更に酢酸エチルと水にて順次分配操作を行い、得られた酢酸エチル画分を silica gel、ODS カラムクロマトグラフィーにて分離後、逆相 HPLC により分離精製を行った。その結果、新規オレオサイド型セコイリド配糖体 **1** 及び既知化合物 16 種を単離した。これらの化合物の構造は各種スペクトル解析より決定した。また、新規化合物 **1** を含む数種の化合物は DPPH フリーラジカル消去活性と SOD 様活性を示した。

